（様式１）

# 県立古河第三高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

## 総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，自己の在り方生き方を考えながら，よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において，課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，新たな価値を創造し，よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

## 学校の教育目標

校訓「自立・敬愛・創造」

「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、自力で自らの立ち位置を定め、自他共に尊重し、新たなものを創り出そうとする気概と柔軟さを持って広く社会に貢献できる人材を育成する。

○ 自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒を育む学校
○ 自他共に尊重し、思いやりの心にあふれた生徒を育む学校
○ 柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒を育む学校

## 各学校で定める目標と育成する資質・能力

『総合的な探究の時間』の活動を通じて身につけた知識やスキルを活用し，自己の在り方生き方を考えながら，主体的に課題を発見・解決できるようになるために，次の資質や能力を育成する。

（１）「聞く力」「読む力」「情報を処理する力」を鍛え，各教科で学んだ内容や，教科の特性に応じた見方・考え方をはたらかせることで，課題や事象を論理的かつ多面的に捉える力を育成する。
（２）経験から学ぶ力，仮説を立ててそれを検証・考察し他者へ伝える力を身につける。
（３）持続可能な社会を実現するために自ら考え行動し，社会に貢献しようとする態度を育てる。

## 総合的な探究の時間の学習評価

① 自らの興味関心や将来の進路を見据え、適切な課題を発見し、設定している。
② 探究活動で得た情報を効果的に発信するための方法を検討し、実施する。
③ 様々な角度で検証・考察を行い、課題解決に向かって探究活動を行っている。

## 生徒の実態

- 主体的な行動力がやや不足し，指示を待って行動する生徒が一定数見受けられる。
- 経験・体験が比較的少ない。
- 発信力・計画力にやや欠ける。
- 穏やかで優しく思いやりのある生徒が多い。
- 素直で真面目である。
- 協働する力があり，ボランティア精神が豊かである。

## 生徒の発達をどのように支援するか ○配慮を必要とする生徒への指導

・不登校傾向にある生徒及び家庭への支援
・SC，教育関係機関との連携
・情報共有
（SC と関係職員とのコンサルテーション）
・生徒との面談

## 目指す生徒の姿

- 意欲にあふれ，自ら学び行動する生徒
  **→アクティブ・ラーナー**
- 多様性を尊重し，言葉を通じてコミュニケーションをとりながら社会への貢献を目指す生徒
  **→グローバル市民**
- 将来的に地域の政治・経済・文化等を牽引することができる生徒　**→地域のリーダー**

## 各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題，探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

**１年　SS１（グループによる課題発見から解決）**

**「地域」「企業」「学校」「研究」の４つの対象から探究する**

（１）知識・技能：「聞く力」・「書く力」・「情報を収集する力」
（２）思考力・判断力・表現力：「課題発見力」「課題解決能力」「論理的思考力」
（３）学びに向かう力，人間性等：**「合意形成の力」**

**２年　SS２（個人での探究と新しい発見）**

**「自立」「敬愛」「創造」の３つの領域で探究・研究する**

（１）知識・技能：「情報収集力」「情報整理力」「データ分析力」
（２）思考力・判断力・表現力：**「適切に発信する力」**「プレゼンテーション力」
（３）学びに向かう力，人間性等：「関係構築力」「主体性」「協働性」

**３年　SS３（キャリアとのマッチングと自己実現）**

（１）知識・技能：「情報収集力」「情報整理力」「データ分析力」
（２）思考力・判断力・表現力：「経験学習力」「意思決定力」「プレゼンテーション力」
（３）学びに向かう力，人間性等：「責任感」**「社会参画・貢献への意欲」**

## 学習活動，指導方法等

「Sanko Study」

**～古河藩主土井利位の探究心から学ぶ～SS の時間（異学年ゼミ探究）**

能動的、積極的な外部機関との交流を通して自身の設定したテーマの探究学習を仲間とともに深めていく。

・チームキャンプ(新入生研修)　：協働し課題を解決する姿勢を学ぶ。
・分野毎中間報告会　：領域ごとに成果の中間報告を行う。
・SS 成果報告会　：外部専門機関・地域、専門家による評価、助言を受け、探究の更なる広がりを目指す。
・面接対策会　：進路決定のため、面接に特化した能力を向上させる。
・関係する外部の発表の機会に積極的に参加し、自身の発信力を向上させる。
・『R７SS 成果報告書』を制作・発行する。

**先輩の探究を受け継ぎ、後進への指導で自らの理解を深めるための異学年協働ゼミ形式による活動を行う**

## 指導体制（環境整備，家庭・地域との連携）

- 探究推進部（７名）：計画立案・授業者への伝達・指導者からの報告等。
- 職員探究研修会（4 月～5 月）：本校の探究の目標や育てようとする資質・能力について共通理解をはかる。
- 授業担当者会議（月例）：授業内容・進捗状況・評価の観点について情報を共有する。
- 専門家（大学・企業・NPO 等から）を招き成果報告会を行うことで、自身の探究活動の評価を受ける。
- 地域との連携：地域の行政機関や地元企業と連携し，探究活動や成果発表等に助言や協力をいただく。また，生徒の学びを地域や社会に還元することで双方向型の連携をめざす。